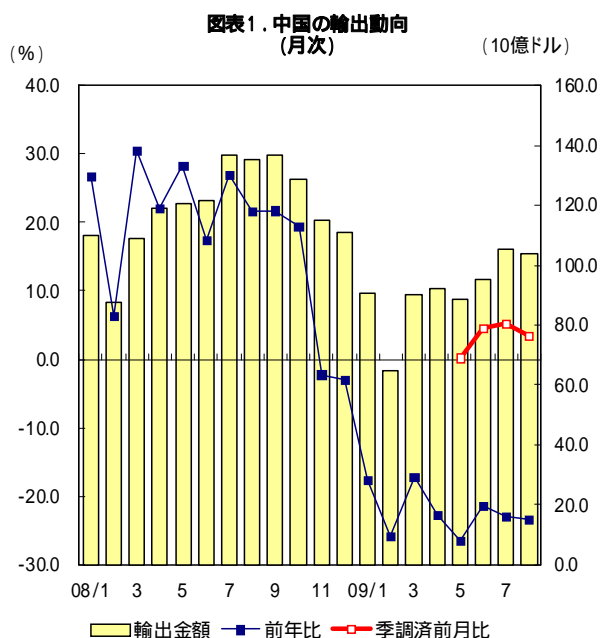


2009年9月25日

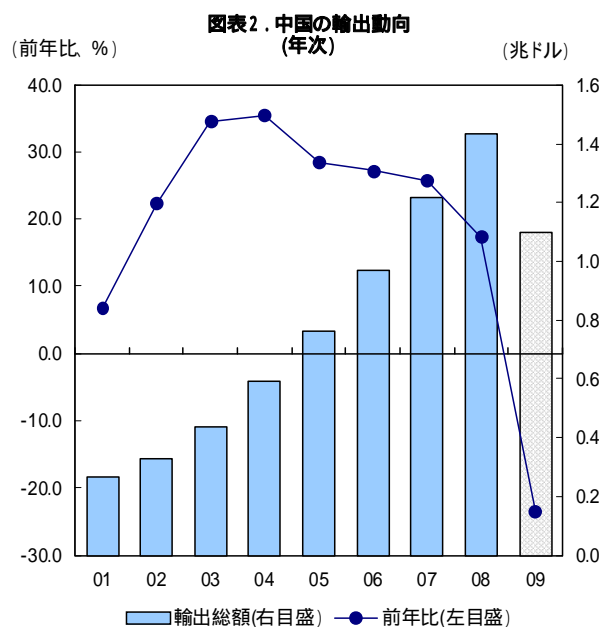
中国の輸出の現状～「安定回復の兆し」の確度はどの程度と見るべきか

1. 前年比2割減だが、4ヶ月連続前月比プラスが続く

中国の輸出は8月に前年比23.4%減、1～8月ベースでも同22.2%減と依然として前年比2割を超える減少が続いている。しかし、輸出額は7月、8月と2ヶ月連続して1000億ドルを超え、また、最近発表されるようになった季節調整済の前月比の統計は、5月以降4ヶ月連続してプラスを記録している(図表1)。そして後者のデータを論拠に、輸出にも安定回復の兆しが見えてきたと中国政府は強調している。果たして中国の輸出の「安定回復の兆し」の確度はどの程度と見るべきなのだろうか。



(出所)CEIC

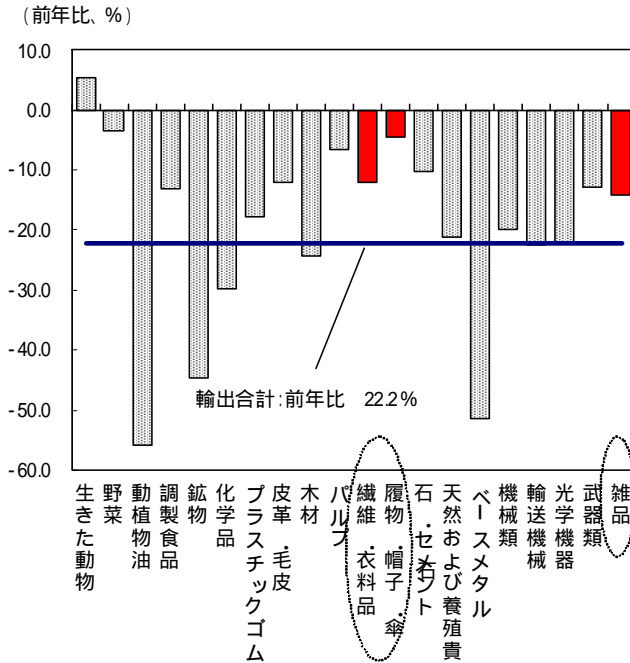


(注)2009年は1-8月実績の年率換算値とそのベースでの伸び率。
(出所)CEIC

2009年1～8月実績をもとに試算すると、2009年通年の輸出は前年比23.4%減と大幅な減少となるが、輸出額はそれでも年間1兆ドルを越える見通しである。2008年時点でも年間輸出額が1兆ドルを超えたのはドイツ、中国、米国の3カ国のみ(日本の年間輸出額は7,823億ドル)であり、世界経済の急速な悪化にもかかわらず確かに善戦していると言える(図表2)。

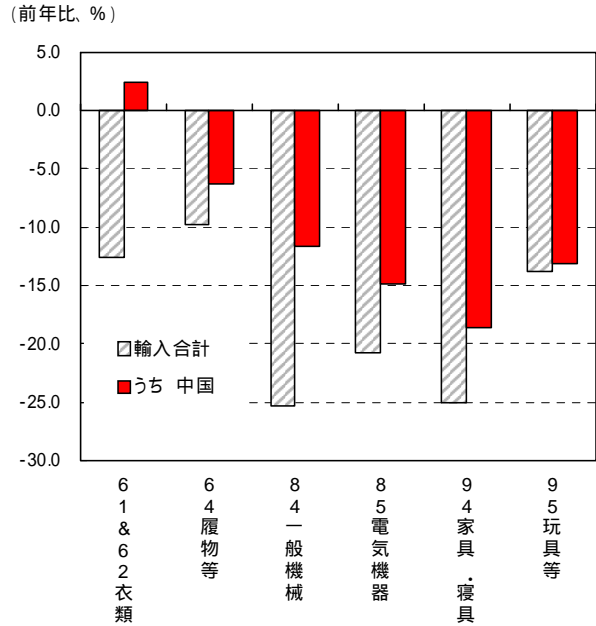
また品目別の輸出の伸び率をみると、労働集約型で中国が強みを持っているとされる衣料品、履物、玩具をはじめとする雑品といった軽工業品目で、輸出の減少幅が全体の減少幅に比べて小さくなっている(次頁図表3)。さらに、主要輸出市場である米国ではこれらの品目について、市場全体が縮小する中であって、中国からの輸入は増加、ないしは減少幅が全体の減少幅に比べて小さくなっており、中国の輸出の底力が窺われる(次頁図表4)。

図表3. 品目別輸出動向(09年1-8月)



(出所)CEIC

図表4. 米国の09/1-7月期の輸入動向

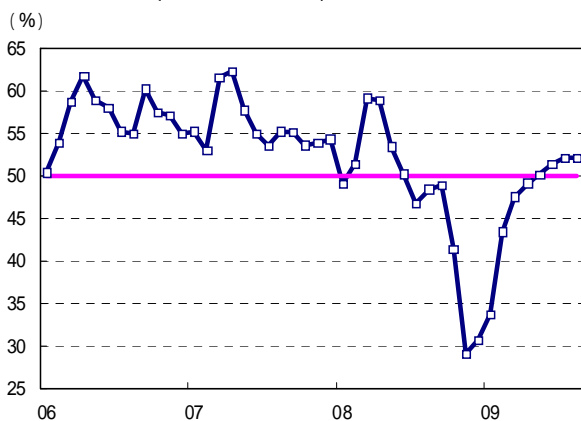


(出所)World Trade Atlas (注)品目名の頭の番号はHSコード番号。

2. 輸出回復の兆しは限定的

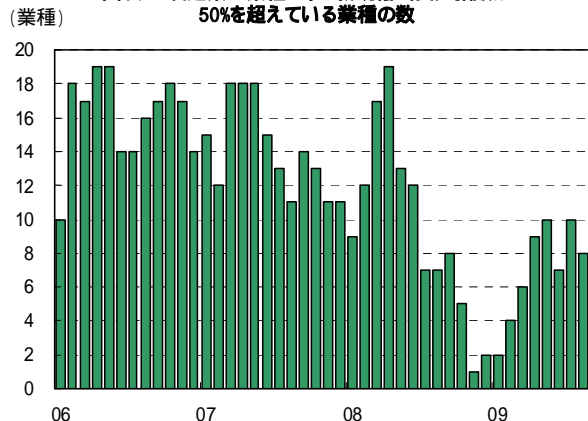
また、景気の先行きを示す指標として注目されている PMI（製造業購買担当者指数）の構成指数のひとつ新規輸出受注指標は5月以降、拡大と縮小の分岐水準である50%を4ヶ月連続で上回っており、輸出が減少から増加に転じていることを示唆している（図表5）。しかし、対象となる製造業20業種のうち、何業種で新規輸出受注指標が50%を上回っているかを見てみると、5月と7月にはかろうじて半分の10業種で同指標が50%を上回っていたが、直近の8月では20業種中8業種にとどまっており（図表6）、輸出回復の兆しは見えるものの、その範囲は限定的であり、まだまだ脆弱なものと言えそうである。

図表5. PMI(製造業購買担当者)新規輸出受注指数の推移

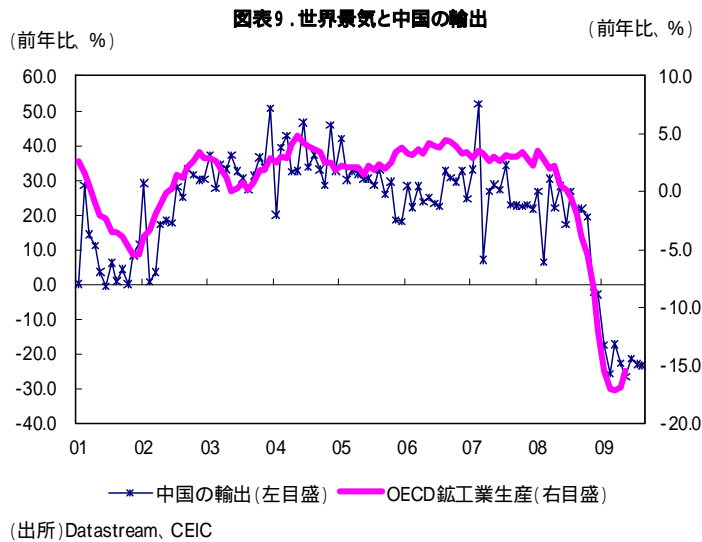


(出所)CEIC

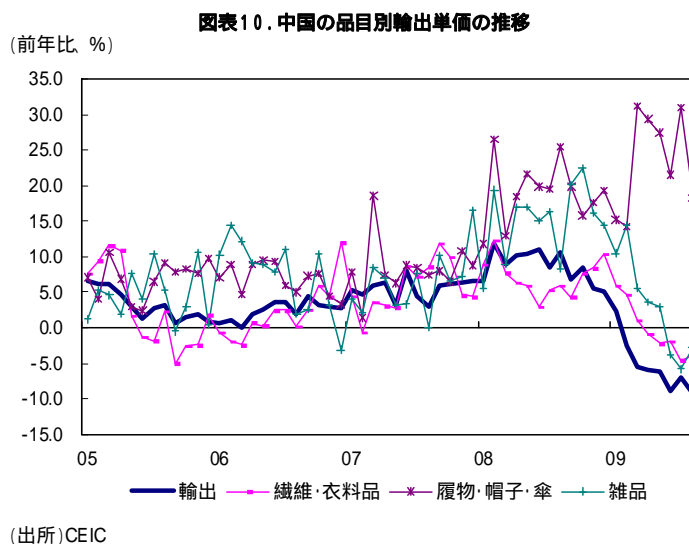
図表6. 製造業20業種のうち新規輸出受注指数が50%を超えている業種の数



(出所)CEIC



ただし、世界経済が回復に転じた時には中国が以前よりも競争力のある「世界の工場」として台頭する可能性がある。と言うのは、今般の金融危機に端を発する世界経済の急速な落ち込みの中で、中国でも企業の淘汰・再編が否応無しで進んでいると見られるからである。非効率な生産を続けてきた企業の倒産は、一時的に雇用市場の安定に大きな脅威をもたらしたが、最近では一部に雇用逼迫のニュースも聞かれる。また、厳しい環境下にもかかわらず輸出単価が上昇したり、あるいは低下が相対的に小幅にとどまっている品目も見られる(図表10)。これらの事象は、危機を経て一部の産業で体質強化が進んでいることを示唆していると考えられる。まさにピンチはチャンス。中国の輸出は世界経済の回復とともに新たな発展期を迎えるのではないだろうか。



以上
調査部 野田麻里子

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、弊社はその正確性を保証するものではありません。また執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一的な見解ではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されております。一部を引用する際は必ず出所（弊社名、レポート名等）を明記して下さい。全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、弊社までご連絡下さい。